

現代占術家読本

運命学 奇法大全

破壊と創造の転換秘伝書

この本の内容は、運命学の専門店であるフォーチュンソフト社の「占いプロ育成シリーズDVD運命学奇法大全」（定価八万四千円）と「同シリーズDVDこれからの時代をどう生きる〜洗脳からの脱出〜」（定価五万二千五百円）をまとめたものです。内容の全てはフォーチュンソフト社に確認し、正しい内容であることを保証致します。

はじめに（二〇一〇年五月発刊版より）

「運命学を学んでいるのに、開運しないのはなぜ？」長年、占いを勉強した上で、こういう思いをお持ちの方も多いと思います。

運命とか運勢、そういう言葉に引かれて運命学（四柱推命、紫微斗数推命、ホロスコープ、気学、タロット、断易、周易など）を学び始めたものの生活ぶりは一向によくならない。

運命学というからには、恋人の欲しい人には恋人を、お金の欲しい人にはお金、結婚したい人には結婚相手、仕事の欲しい人には仕事、それぞれの人が望むものを得るために、各人の現状を一步でも前進させるものであつて欲しいものです。

という私自身、算命学の教室から始まり、いろいろな本、スクール、通信講座やプロといわれる占い師のところに通つたりと、十五年以上にわたり運命学にかかわっていますが、思うように現状が変わらない期間が長く続き、常に心が満たされない状態でありました。

古代オリエントや中国大陸で発展してきた運命学は、なんだかんだと四千年以上の歴史の中で、今に残っています。では運命学を学ぶ人の暮らしぶりが改善されないのは、運命学自体に問題があるのでしょうか？

このような一連の疑問に対して、フォーチュンソフト社の天野雲海氏が今回、開発・発表された『運命学奇法大全』が、一つの解答と方向を提示しています。

折りしも、現代はアメリカで初の黒人大統領オバマの登場、環境エネルギーによるエネルギー革命、金融危機による産業構造の変化など、世の中全体が構造を変え、方向を変えようとしている真只中です。

そんな中、誕生した「奇法」は長い歴史が積み重なった占いの世界を、新しい方向へ変えていくものかもしれません。別名「善吉運命学」と名付けられたこの内容は、運命学をどう使い、どう発想し行動するのか、今までの既成概念の枠の中でしか発想できない多くの人々に与えられた、枠の外からの発想であります。

今回のこのハンドブックの編集が、皆様の占いライフと皆様の周りの方々の生活を豊かにするものとなり、皆様の心を満足させる、そういう光となってくれることを願ってやみません。

「秘伝運命学奇法大全解説」発行プロジェクト 代表 有賀馬鯉

はじめに

はじめに 新版

書籍「運命学奇法大全」の初版の発刊が、二〇一〇年五月でした。

あれから二年弱の時間が経過して、この度フォーチュンソフト社のDVDセミナー「これからの時代をどう生きる」洗脳からの脱出」と合本という形で「運命学奇法大全」を新版として復刊することができました。

本の前半部分の「奇法大全」では、プロ占い師が、お客さんとして来る人を、どうアドバイスすることで開運へと導けるかについて解説してありますが、今回「洗脳からの脱出」が合本されることによって、「人生が苦しい」と感じている人達全般の何が問題で、その状態からどうすることで転換できるのかについて、より掘り下げる内容になったと感じています。タイトルには「洗脳」という言葉が使われていますが、これは「トラウマ」「囚われ」「思い込み」「世間体」「一般常識」などと同義語で、メカニズムも同じです。

一説によると、人間には誰でも、どんな人にも「知恵とか「叡智えいち」といわれる直観的な能力が備わっ

ているといわれています。ところが常識とか習慣、教育などに縛られて自由性を失ってしまった人間は（～ねば、～べきの世界にどっぷり浸ってしまうこと）これが自分の中にあることを忘れてしまうというのです。このことをサンスクリット語では「パーニャパラミタ」と言われています。

「・・・？」どこかで聞き覚えのある響きではありませんか？、実はこれが、インドから中国を渡って日本に来て「般若心経」になったというのです。そして原語「パーニャパラミタ」を直訳すると『自分の中に既に持っている、内在された叡智』という意味になるそうです。つまり「幸せになる答えは、全部、自分の中にあるよ・・・」ということらしいのです。今回合本された『洗脳からの脱出』はこのことにシンクロする、はじめの一步について解説する内容になっています。

また皆さんもご存じのように、昨年二〇一一年三月十一日に「東日本大震災」が起きました。津波、原発、復興など大きな出来事があり、今なお多くの日本人の価値観を揺さぶり続けています。

また世界に目を向けても、ヨーロッパの金融危機の問題、アラブ諸国の民主化、金正日の死去など大きな出来事がありました。

「一体これからの世界はどうなっていくのか？」こう思う人も多いと思います。

今回、合本された「洗脳からの脱出」の内容には、聖書やキリスト教を扱った箇所も多く出てきます。「占いと聖書？、キリスト教、新興宗教？」と思われる方も多いかもかもしれませんが、実はこれからの

世界の動き、日本の動きを考えるとときに、西洋諸国がキリスト教文明の影響下にあり、中東諸国も旧約聖書の影響を強く受けているために、どうしてもこういう内容は避けては通れないのです。

ですから実際、先物取引、株式、為替など各マーケットに関わるトレーダーの一部では、占いのなホロスコープや聖書が従来から学ばれてきました。

そのため今回参考として『投資日報社』の創設者で『月刊 商品先物市場』の元編集長の鏑木滋氏のコラムを最後に紹介させていただき、「はじめに」を終えさせていただきたいと思えます。

有川馬鯉

人類の燔祭

昨今は旧約聖書とホロスコープ（占星の天宮図）を勉強しないと世界の相場はわからない。

為替、金利、株価先物の相場に取り組んでいるディーラーの関心はやはりホロスコープである。

天宮図は次として、聖書は読んで面白いところと煩雑なところと、理解しにくいところが多い。

しかし聖書の背景や、歴史の流れを解説する書はきわめて豊富である。

相場世界は石油という問題にふりまわされる。

石油問題は中東情勢に左右される。

中東を知ろうと思えばアブラハムを知らなければならない。

アブラハムといえば聖書の圧巻である。

神はアブラハムを試みて彼に言った。

『アブラハムよ』

『ここにおります』

『あなたの愛するひとり息子のイサクを連れてモリヤの地に行き、私の示す山で彼を燔祭として捧げなさい』

燔祭とは祭壇で神に供えるものを焼いて二ツに裂くことである。

アブラハムは、たぎぎをその子イサクに背負わせて二人一緒にモリヤに行った。

アブラハムの子イサク。イサクの子ヤコブ。ヤコブ二十二人の子。

この十二人の子がイスラエル十二支族の起源である。

十二支族は二ツにわかれる。南王国のユダ、ベニヤミン（南）の二族がユダヤ王国を築く。あとの十支族（北王国）はイスラエル王国を築く。

北と南と二ツに分裂するのは神に供え物を捧げるとき、燔祭は必ず二ツに裂かれなければならないのと同じことである。

人類は南北にわかれ対立し、東西に分かれ対立してきた。

現代のユダヤ人はユダヤ王国に属する支族の子孫で、ローマ帝国以来、国を失い二千年にわたり放浪してきた。

そこから追われたアラブ諸国民は、回教と、ユダヤ教の違いや居住権、生存権の問題などで戦争をくりひろげる。

中東諸国の動きを歴史的に理解するには、アブラハム、モーゼ（脱エジプト記）までさかのぼらなければならぬ。

【『復刻先物の世界相場開眼』 楠木繁著 パンローリング(株) より転載】

表記は原書のまま

はじめに (二〇一〇年五月発刊版より) 6

第一章 「あなたの悩みが間違っている!」これが奇法だ 29

- 占いの「正法」と「奇法」とは? 30
- 二分思考の恐ろしさ 31
- 運命学を使うための重要な三点 33
- 占術家としての重要注意点 ① 「問題を解決してあげよう」はNG 34
- 占術家としての重要注意点 ② 「恐怖に支配された脳が凶を探し続ける」 36
- 五行理論にひそむ危険な二分思考 40

第二章 「恋愛・結婚・不倫」のお悩みへのアドバイス 49

- 占術家としての重要注意点③ 「人生にマニュアルはない」 44
- 運命学を習得して目指す境地 46
- 彼氏彼女、恋愛に関するお悩みへのアドバイス 50
- 魂を無視して生きるとどうなる？ 51
- 「私を捨てる人はどんな人？」へのアドバイス 54
- 「不倫にはまったらどうするか？」という相談へのアドバイス 58
- 不倫してハッピーになる人と不幸になる人の違い 60
- 各十干別 「不倫にはまったらどうするか？」へのアドバイス 63
- 「あの人はいい人ですかどうですか？」という相談へのアドバイス 65

第三章 「前世と現世、仕事と結婚」のお悩みへのアドバイス 75

- 「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」という相談へのアドバイス 67
- 通変星別 「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」へのアドバイス 69
- 「略奪愛は罪なのか？」という相談へのアドバイス 71
- 占い師が心がけるべきアドバイス 74
- 「この恋に飛び込んでもいいですか？」という相談へのアドバイス 76
- 通変星別 「この恋に飛び込んでもいいですか？」へのアドバイス 77
- 「恋によって何を学ぶのか？」へのアドバイス 79
- 「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなる？」への通変別アドバイス 82
- 「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなる？」への中心星別アドバイス 85

■ 「型に固執すると滅びる」とは？

90

■ 「前世でどういうことをしていたのか？」という疑問へ変通星でのアドバイス

92

■ 「前世でどういうことをしていたのか？」という疑問へ十干でのアドバイス

96

■ 「前世でどういうことをしていたのか？」という疑問へ十二運星でのアドバイス

97

■ 「あなたの悩み自体が間違っている」とは？¹⁰¹

101

■ 「どうしたら結婚できるか？」という相談へのアドバイス

103

第四章 「占いビジネス」「結婚」「性愛」のお悩み解決

107

■ 「どうすれば占いビジネスで儲けることができますか？」という相談へのアドバイス

108

■ 「いつ結婚できますか？」という相談へのアドバイス

110

■ 「自分が嫌い」という相談への通変星でのアドバイス

113

- 「異性に心を開くことができない」という相談へのアドバイス 116
- 「片思いの状態から脱出したい」という相談へのアドバイス 118
- 「異性からあなたはどう思われているか？」という相談へのアドバイス 122
- 体の相性、セックスの相性、Hの相性への相談アドバイス 127
- 女性が喜ばないまぐわいはしないほうがよい 131
- 「人生の分かれ道」への相談アドバイス 133

第五章 「異性とのつき合いかた」のお悩み解決 137

- 「気になるあの人が安心して心を開く異性とは？」への相談アドバイス 138
- 「気になるあの人が心を開く異性とは？」への通変星での相談アドバイス 142
- 「異性が嫌いになるあなたの部分」という相談へのアドバイス 144

第六章 「才能」「お金」「仕事」のお悩み解決 173

- 恋愛相談でお客様の根底に恐怖がある場合のアドバイス法 151
- 占い理論上最高の相性でもうまくいかない理由 152
- 男女の相性、占星術のアスペクトでの解説法 155
- 「結婚に向かうべきでないとき、それはどういうとき？」という相談へのアドバイス 160
- 「あの人と別れたほうがいいですか？」という相談へのアドバイス 164
- 「結婚は早いほうがいい？遅いほうがいい？」という相談へのアドバイス 167
- 「結婚の時期」の相談、十干での解決法 169
- 「あなたの才能は何か？」の相談を西洋占星術でアドバイス 174
- 「独立するならいつがいい？」という相談へのアドバイス 177

第七章 「パートナー」「来年はどうなる?」のお悩み解決 207

- 「あっちがいいのか? こっちがいいのか? 人生の分岐点」の相談へのアドバイス 179
- 「あなたが生まれてきた理由」という相談へのアドバイス 182
- 「仕事で生きがいを感じるには?」という相談へのアドバイス 185
- 「仕事とお金」についてホロスコープでの解説法 192
- お金が集まってくる秘訣とは? 199
- 十年間売上ナンバーワンのコンテンツタイトルとは? 200
- 「あなたに必要なビジネスパートナーとは?」の相談へのアドバイス 203
- 「あなたに必要なパートナーは?」という相談へのアドバイス 208
- 水素原子にみる「溶ける」と活動範囲のひろがり 208

- インターネットで最も検索されるキーワードとは？ 213
- 世の中の人々は「仕事」よりも「恋愛」「結婚」に意識が向いている 215
- 正反対の位置「十干」の「干合」について解説 218
- 「あなたの結婚相手はどんな人？」という相談へのアドバイス 222
- 「結婚」の本当の意味とは？ 226
- 「あなたを幸せにしてくれる人はどんな人？」という相談へのアドバイス 226
- 「異性によって運が下がる時」という相談へのアドバイス 229
- 「異性と恋に落ちるときのプロセス」という相談へのアドバイス 232
- 「気になるあの人を、振り向かせるには？」という相談へのアドバイス 234
- 「今年の運勢は？」という相談へのアドバイス 244

第八章 「開運しない」「願い事が叶わない」というお悩み解決 249

- 占いを教える側の人間の心得 250
- イチコロ選手の命式、大運の立運が「6」になる理由 252
- 「大衆は人目を気にする」ことの解説、フィリピン人との国際結婚の事例 256
- 自分ではわからない宝の部分とは？ 258
- 権力者に利用された「罪の仕組み」とは？ 260
- 人類を支配してきた最大の罪とは？ 262
- 大衆は「願い」そのものが間違っている！ 264
- 「願い事」が叶わない理由 265
- これからの占い業界に必要な「善吉占い」とは？ 265
- 「恋の発展をさまたげるウィークポイントとは？」という相談へのアドバイス 268
- 「恋人をつくるにはどうしたらいい？」という相談へのアドバイス 272

第九章 不幸な人とは「洗脳」 Ⅱ 「思い込み」で生きる人

275

■ 「洗脳」 Ⅱ 「思い込み」がその人の常識となる

276

■ 第二次大戦中の洗脳による平壤（ピョンヤン）の悲劇

278

■ ガン治療への「思い込み」

■ ガンで死なない人とは？

■ 資本主義、共産主義の結果は同じ

■ 善悪を二つに分ける思考は幼稚な発想

296 287 284 281

第十章 「洗脳」の中で生きる人々

299

■ 洗脳されている人間は「必ず人生を楽しく生きてない」

300

■ 「禁欲生活をするとどうなるか？」の実例	303
■ 脱サラした企業家を感じる「恐れ」の原因	305
■ 「二分思考」は超エゴイスト人間をつくり出す	309
■ カルト教団や悪徳商法に洗脳されやすい人の前提条件	312
■ マイトレーヤーについて解説する	315
■ 「真理は自分で発見できる」の実例『奇跡のリンゴ』	317
■ 「淫乱が最大の罪」と思い込んでしまう理由	320
■ 統一教会の信者が教会を断ち切れない理由	324
■ 統一教会の教典にある意外に使える部分	325
■ 「守反離」は剣道、茶道などの「道」の分野でも使われる	331
■ 霊感商法や詐欺に引っかかる人の心理	333

第十一章 「洗脳」から自己発見へ、そして商売の肝 337

- 日本人には馴染みの薄い聖書について解説する 338
- エデンの園（失樂園）の物語を解説 341
- 歴史上初の殺人、アベルとカインの物語を解説する 347
- カインを悪にする、もの凄い「ねつ造」理論を解説する 350
- 「まぐわい」への二分思想的発想は子供をバカにする 354
- 株式投資で勝てるのは理性の力が感情の力より強い人 357
- 金日成が独裁体制を築くことができた理由 359
- 「何を学ぶか」ではなく「誰が学ぶか」が重要 361
- 「どうやったら売れるんですか？」という質問に答える 363
- 占いに関心を持つ人の特徴 365
- 「正しいことをやっていれば商売はうまくいく」は有り得ない 366

第十二章 実録洗脳解除セミナー 377

- 「収入が安定するにはどうすればいい？」という質問に回答する 369
- 国や税務署の悪魔的発想 374
- カルト教団の教えで頭に残っている内容は？ 378
- 教会へ献金をする理由 382
- 自分の価値観を無視した生き方は奴隷と同じ 385
- 地球の主は人間に何を望んでいるか？ 394
- 「自分がやりたい」ではビジネスの儲けは出ない 398
- 「私これやるわ、あれやるわ」と言っただけで地縛霊となっていく人達 400
- 世の中が認定することが正しいこと 406

第十三章 これからの時代をどう生きるか？

425

- マルチに引つかかる人はズルイ人間 409
- 自分以外の誰かが、自分の代わりに人生を変えてくれる？ 412
- 劣等感に直面したときに重要な対応の仕方 415
- 地球の主は「やったらどうなる？」という恐れを一番嫌がる 420
- これからの日本と世界はどうなるのか？ 426
- 日本人は一体どこから来たのか？ 429
- キリスト教国家の理念の根幹はイエスの弟子パウロの思想 431
- 「善を行えば権力者は誉める」は本当か？ 税務調査の場合 434
- キリスト教が権力者に利用されるようになったニケヤ会議 436

付録 「みどりのタヌキの物語り」

461

- ニケア会議の決定に納得できなかった集団はどこへ？ 439
- 世界史の謎 「イスラエルの失われた十部族」 443
- 大企業のトップや世界の貴族はどう発想しているのか？ 445
- 日本人的発想の産物ハイブリッドカー 447
- 通貨相場と欧州勢、米国勢の構図 448
- 儲からない人とはどんな人か？ 451
- 証券会社の常識を許さなかった地球の主 454
- 「運をよくしたい」という質問に回答する 455
- どんな出来事にも「どう反応するか」が開運の鍵となる 459

第一章

「あなたの悩みが間違っている！」
これが奇法だ

■占いの「正法」と「奇法」とは？

「奇法」とは一体何でしょうか？それは、正法に対する反対の言葉です。

では、正法とは何でしょうか？それは、「これまでの古典的な占い」のことをいいます。

例えば四柱推命では、まず格局や用神を決めて、そこから命式や流年の運の吉凶を決定するのが一般的な鑑定法ですが、このような古典的な運命学の使い方を総称して「正法」といいます。

今までの運命学全般についていえることですが、正法というのは、最終的に吉と凶を分けることを前提に発明された理論なのです。「占い」といえば、大吉、吉、大凶などのように、はっきり吉と凶に分かれているのが当たり前、というイメージの方が多いと思いますが、そういうオーソドックスなスタイルが正法の占いです。

吉と凶をはっきり分けるスタイルが正法ですが、実際の占いの現場では、相談を持ちかけられ、相談者の抱えている様々な悩みを解決するときに、往々にして正法では役に立たないことがあります。そこで、必要となってくるのが吉凶を越えて使う「奇法」という手法なのです。

そして実は、正法と奇法とは表裏一体のものなので、占術家は両方を使いこなす必要があるのです。今回解説していく奇法大全とは、正法（＝古典的な占い）を卒業して、吉とか凶は当たり前に使えますよというレベルの人が次に使うものなのです。ですから「奇法」は、運命学の指導員を目指す人に

は絶対に必要となる手法といえます。

■四柱推命での奇法

詳しく説明すると、例えば四柱推命では、まず生年月日から命式出します。そして「命式がこうだから、あなたは何々です」という発想で鑑定をすすめていきますが、これがオーソドックスな正法の鑑定の手順です。ところが奇法では、生年月日を必要としません。なぜなら答えは決まっているからです。例えば何かの問題があったとすると、その瞬間、答えはすでに決まっているのです。これが奇法の発想です。

ですから、占い師とか占いカウンセラー、電話占い師など、いわゆる占い産業で仕事をしている人は、実は、正法を知らなくても、奇法さえ知っておけば商売が成り立つのです。

占いの相談にやってくる人は、各人の個性が違っていても、生年月日が違っていても、万人に共通する答えがある。これが奇法なのです。

■二分思考の恐ろしさ

実際の占いの現場では、従来の吉とか凶を判定する正法だけを使っている、「お客さんが幸せに

ならない」という現実があります。占い師に「凶です！」と言われれば、お客さんの波動はガクッと落ちます。その瞬間、お客さんの運が下がってしまいます。

ところが、逆に「吉です！」と言われた場合でも、大抵のお客さんは「吉とは言われたけど、吉の中にも良ことと悪いことあるんじゃないのか？」と悲観的な発想をしてしまうのです。「吉の中にも凶がないか？」「そうは言っても、なんか悪いことあるんじゃないか？」と吉の中に凶を探そうとするのです。

そこで「いやいや、大丈夫ですよ。」と言ったとしても、お客さんは、さらに、その言葉の中に吉と凶を探そうとします。これは、お客さんの心の中で感情を支配している何物かが、いつまでたっても吉と凶を探そうとさせるのです（自分の中に特定の思い込みや信念があるのです。このことについて第九章以降に詳しく解説されています）

■どんな場面でも「凶」を探してしまう脳

このことを「物事を分けて考える発想」といいます。ここは非常に重要なポイントなのですが、この二つに分ける発想のことを「二分思考」といいます。この二分思考にどっぷり浸かっている相談者と対面している限り、その人の感情はどこまで行っても「吉と凶を分けたい、分けたい、分けたい・・・」

となっているのです。終わりがありません。

どんなに良いことを言われても、二分思考の人は必ず良いことの中に悪いことを発見しようとしません。脳ミソがそうなってしまっているのです。脳の回路がそうなってしまっているのです。ですから二分思考の人は、どこまでいっても「100%の吉」を探そうとします。ところが現実には「100%吉」の人生なんてないのです。

結論をはつきり言いますと、吉と凶を分ける二分思考でいる限り、その人は開運できません。知らず知らずのうちに不安の感情に、心がコントロールされている状態なので、何をどう頑張っても状況は良くなりません。

そこで、これとは反対の方向へ導いていくのが奇法です。奇法は最初から全吉を前提としています。お客さんは一時間数千円とか、数万円払って、わざわざ相談に来るのですから、占い師はお客さんの波動を上げて帰してあげないといけません。「全吉」を前提として吉凶を分けない、それが奇法なのです。

■運命学を使うための重要な三点

続いて、ほとんどの人が気づいてない、運命学を使う場合に重要な三点について、説明していきます。

まず始めは占い師など、相談を受ける側の人に必要な心構えについて説明しますが、これが一番重要なポイントとなります。

■占術家としての重要注意点①「問題を解決してあげよう」はNG

意外に思う方も多いと思いますが、相談を受ける側は、相談者に対して「問題を解決してあげる」という気持ちを持つてはいけません。絶対に駄目です。これは問題を解決してあげるためのテクニクの部分により大事、ということでもありません。

ベテラン占い師など、今まで多くの人から相談を受けた人は気がついていますが、お客さんという人達は、感情と思考が整理されていない状態で相談にやってきます。実は悩みを抱えているお客さんというのは、ほとんどの場合、表面的なところばかり気になって、「より深くにある問題」が分かってないのです。

よく日本の教育の特徴として、子供のころから問題自体を考える脳の訓練が行われてないという欠点が指摘されます。小学生の頃から、百%正解がある問題ばかりを解く練習を繰り返しているだけなのです。ですから答えのない問題を解くものはありませんし、問題を自分でつくることもありません。その結果、日本人の脳は「問題を明確にして特定する」ことに慣れていません。実は、それがお客

さんの持つている「悩み」の本当の姿なのです。

ということは、逆に問題さえ明確にしてあげれば、悩みの半分は自分で解決できるのです。この「悩みとは何か？」とは「問題がわからない？」と同じことなのです。「問題がわかってない」というのがお客さんの悩みの本質部分なのです。

■占術家は、相談者自身が問題解決の方法を語るよう導く

ですから占いカウンセラーなど悩みを聞く側の人は、お客さんの問題を解決してあげようと思って「あなたの抱えている問題はなんですか？」というような質問をしてはいけません。相談者は、問題自体がわかってないので、ストリートに聞いても駄目なのです。お客さんは本当の根っこの部分を自覚してないので、その口からは本当の問題からずれた答えしか出てきません。

そのため占い師はテクニクとして、まず世間話から入っていかなければいけません。繰り返します、相談者本人が、問題点を自覚してないのが「悩み」の正体なのです。

ですから悩んでいる人から相談を受ける場合、「あなたの問題は○○○でしょ」という部分を発見することに、鑑定のエネルギーの九十%を使って下さい。占い師でもカウンセラーでも、相談される側の全ての間人は、ほとんどのエネルギーをそこに集中させなければいけません。これが一番重用な

ことです。

■「占い産業」その本質を解説する

次に「占い産業とは一体何か？」について説明します。

占い産業とは、情報を提供する産業です。生年月日からお客さんの命式を出して、「ああですよ、こうですよ」と鑑定していきます。お客さんは、自分が知らない情報を求めてやってくるのです。占い以外の情報産業全般にもいえることですが、『お客さんの頭には、お客さん自身が欲しいと思っている情報が入ってこない』という事実があります。これはとても重要です。

■占術家としての重要注意点②「恐怖に支配された脳が凶を探し続ける」

普段の生活の中で、毎日いろんな情報が入ってきます。新聞、テレビ、ニュース、評論家の番組、宗教の教えなど、占いもその一つです。ところが、どんなものを見たり聞いたりしても、結局は「自分が欲しい」と思っている情報しか頭に入ってこないのです。

例えば映画の感想も人によって全然違いますし、本を読んでも感想は違ってきます。これは各個人が「欲しい」と思っている情報しか、その人の脳の中に入ってきてないからそうなるのです。そして、



占い師のアドバイス次第でお客様の波動も変わってくる

このことは占い師にとって非常に重要なポイントなのです。なぜかという点、悩んでいる人とは「自分こんな情報が欲しい」ということ自体に気づいてない人だからです。

また、人の心は不安や恐怖の気持ちに支配されると、不安と恐怖を発生させる情報が優先的に脳の中に入ってくるようになっていきます。ですから自分自身の心と同じ波動を持った情報しか入ってきません。そういう仕組みになっています。

ですから、不安や恐怖に支配されている人や、常におびえている人は、目の前にどんなに良い情報があったとしても、無意識に処分されてしまいます。ところが逆に、何があっても、安心・くつろぎの気持ちで生きている人には、安心・くつろぎの情報が入ってくるのです。ですから前者から後者を見ると、「感覚が鋭い」とか「感性が豊かな人」というふうに映るはずですよ。

■不安と恐怖ばかりに反応する脳

そして、占い師のところに悩み相談にやってくる人は、必ずといっていいほど、心が不安と恐怖でいっぱいの人です。心が不安と恐怖でいっぱいだから、その人の脳は基本的に、不安と恐怖の情報しか吸収しようとしません。ですから凶を探し続けるのです。

占い以外の分野にも同じ現象があります。例えば経済の場合、新聞は「円高だから日本の会社は赤字になる」とか「製造業で自動車や家電を輸出する会社が大変」などと書きたてて、不安や恐怖感をあおります。

同じように「国債発行残高が八百兆円越えた」とか「借金をわれわれの子孫に押し付けるな」とか「国家破綻する」「日本が破綻する」と言っている学者やアナリストもいます。

あるいは西暦二千年ごろにはノストラダムスの大予言が流行りました。「西暦二千年になると何か起こる」というフレーズも不安と恐怖をあおります。実際多くの人の感情をあおりました。

■「水子」「先祖」で恐怖をあおる

同様に宗教などで、よく使われるテクニクの一つに「水子の霊」があります。流産した子供や、降ろした子供がいる場合「だからあなたは・・・」というたぐいの手法で不安と恐怖をあおるのです。

靈感商法やっている人はこういうテクニクをよく使います。他にも「先祖が救われてない」とか「先祖が苦しんでいます」と吹き込むことで不安と恐怖をあおります。ところが水子や先祖の話も、実際はウソなのです。

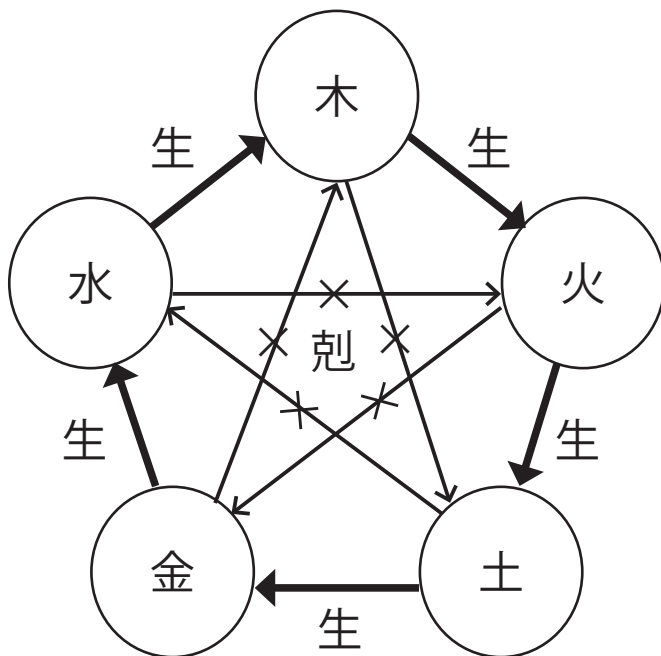
よく考えてみて下さい。先祖を救えるのは一体誰でしょうか？例えば、皆さんの人生に責任を持っているのは誰か？と同じ質問です。皆さんのお父さんお母さんが、あなた自身の人生に責任持てますか？皆さんの子供が、皆さんの人生に責任持てますか？誰も他人の人生に責任は持てません。それぞれ魂が違うのですから責任は持てないのです。

結局、自分の魂は自分でなければ責任が持てません。ということは、先祖の魂は先祖本人にしか責任持てないのです。子孫は関与できないのです。

■「吉」と「凶」に分ける理論で不安におちいる

もし仮に先祖が救われてない、地獄に行っているとしても、先祖は生きているときに悪いことをして勉強のために地獄へ行っているわけですから、これを邪魔してはいけません。そのままがいいのです。それを救おうというのはただの傲慢です。そういうことを言って不安と恐怖をあおっているのです。

実は占いも同じです。一般的な占いは吉と凶を分けますが、この理論そのものが人を不安にしてい



五行理論も使い方によっては不安と恐怖を生んでしまう

ます。「私は運が良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」「この結婚は良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」「来年は良いんでしょうか？悪いんでしょうか？」「そんな質問ばかりです。吉と凶を分けるから、不安と恐怖におちいつてしまうのです。」

■五行理論にひそむ危険な二分思考

また運命学には、木火土金水の五行を使う相生・相剋という理論があります。木が火に相生して土になり、金になり、水になりまた木となる。この流れが相生です。そして相生が吉といえます。木が燃えて、土になって金に固まって水を生

じて水がまた木を育成する。この流れがぐるぐる回ってきれいだから、良いですよということ吉の関係となります。

逆に、木は金から剋されて、木は土を剋して、火は金を剋して、土は水を剋す、こういう関係を相剋といって、これを凶とします。これも五行の相生・相剋といって運命学の基本中の基本ですが、これも実際のところ、不安と恐怖を生じさせる原理でもあります。

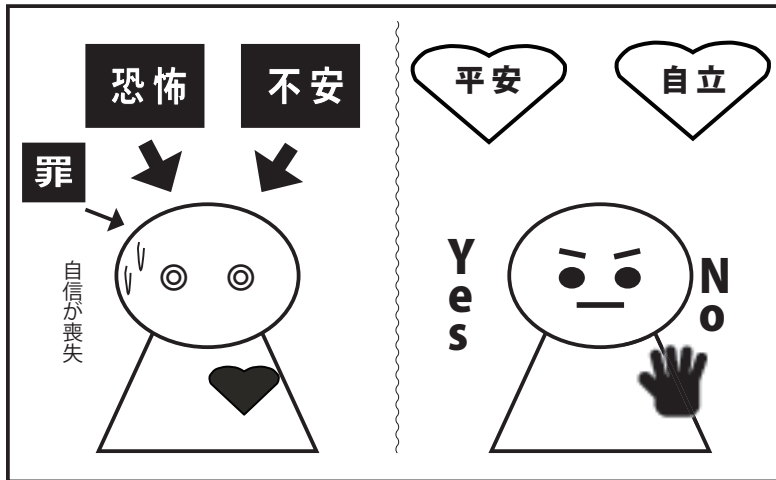
■だまされやすい人とは

このあたりをよく理解していないと、不安と恐怖に洗脳された人は、悪い奴から見ると非常に使いやすいのでだまされます。支配しやすいのです。

“私は罪人である”(＝私はダメ人間だ)という「思い」は、自分に対する自信(自己信頼)を極端に弱めるので、自分自信の感情や思いに自信が持てなくなるのです。

その結果として自分の判断にも自信が持てなくなるのです。「こつちがいいのか?あつちがいいのか?、こつちが安全か?あつちが得か?」こういうった発想です。これが恐ろしいのは、恐怖に意識が集中してしまうと無意識のうちに、しかも瞬間的に一連の発想の結果を招いてしまうところです。

ですから、ちょっと嫌な言い方をしますと、国とか、国の王様的な立場の人からすると、国民を不



恐怖や不安に影響されると、判断に自信が持てなくなる。
結果、他人の影響を受けやすくなり、だまされやすくなる。

安と恐怖の状態にしておけばコントロールしやすいのです。何かに依存したい気持ちがとても強くなるのでコントロールしやすくなるのです。

詐欺に引つかかる人も同じです。「騙されるのは、騙されたほうが悪い」こんな毒舌を吐く人もいますが、実はこれは本当のことなのです。依存心があると、いいようにやられてしまいます。

■キリスト教の危険な側面

次にキリスト教的な発想について説明します。キリスト教には、全ての人間は生まれながらに罪を負っているという「原罪」という発想がありますが、実は、もともとイエス・キリストはこういうことを言っていたわけではありません。同様にイエス・キリストが人類の罪を背負って死んだというのもウソ

なのです。

それでは原罪を主張することで、誰が一体得をするのでしょうか？「人間はオギャーと産まれた瞬間に罪を背負ってきた存在である」と言つて、産まれた瞬間から罪の教育をすると、人間は死ぬまで不安と恐怖の中で生きることになります。安心とくつろぎの発想はありません。そういう発想ができません。生涯不安と恐怖に脅え、びくびく生きるのです。するとやはり、自分で判断し行動する力が抜き取られてしまい、支配しやすい人間となってしまうのです。

■ロシア皇帝の支配と恐怖

また、よくロシア人は信仰が篤いとテレビなどで言いますが、あれは信仰が篤いのではなく、ロシア人が不安と恐怖で一杯な民族であることの裏返しなのです。

ロシア人はロシア正教によって、自分が罪人であることを徹底的に洗脳されているので、心が不安と恐怖で一杯なのです。ロシアは代々皇帝という王様が大眾を独裁政治で支配してきましたが、これは国民を不安と恐怖に洗脳しておけば独裁政治をしやすいのです。つまり、国民を支配するためにキリスト教が使われたのです。

■占術家としての重要注意点③ 「人生にマニュアルはない」

次に三番目として「人生にマニュアルはない」というテーマを説明します。

最近「坂の上の雲」がNHKのドラマになって、日清・日露戦争で活躍した秋山兄弟の話が非常に有名になりました。弟の方が、秋山真之という愛媛県松山市出身の海軍の軍人参謀ですが、この人の戦略のおかげで日本は日露戦争に大勝利しました。

この秋山真之が『兵理を会得しようとするなら、戦史の研究をせよ』と書いています。敵の陣形、味方の陣形がどう動いて、どっちが勝ったかということが戦史に詳しく残っているのです、そこから戦い方を会得しなさいということです。歴史を勉強しろと言いつ残しています。

この言葉の「兵理」のところを「運命学」、「戦史」のところを「自分の歴史」に置き換えると『運命学を会得しようとするなら、自分の歴史の研究せよ』となります。オギャーと産まれてからの、自分の歴史を研究するのが一番の運命学の勉強になるのです。

教官から話しを聞くと、意識が啓発され知識も増えます。DVD講座や本を読んで勉強することで意識が啓発され知識も増えます。ただし力は増えません。



連合艦隊旗艦「三笠」の艦橋で指揮をとる東郷平八郎大将（中央）
東郷大将の画面右側で下を向いているのが秋山真之

■知識でなく使える力を身につけるには？

このことが秋山真之が言い残していることで「弟子が教官から話を聞いただけでは、知識は増えても、力にはならない」という意味です。それでは、肝心の「力」の部分を増やすにはどうすればいいのでしょうか？

それに対して真之は「戦史を自分で研究し、自分で考え、自分で直して使え」と言うのです。つまり、本に書いてあるとおりとか、教官から教えられたそのままでは使いものにならないと言っているのです。最終的には、自分流に直して使わなくては役に立たないということです。自分で研究して、自分で考えて、自分で直すことが非常に重要だと言っているのです。

■自分で公式をつくらなければ実戦では使えない

最近の人が陥りやすい罠として、ある普遍的な公式（つまり変わらない公式）がどこかにあつて、それをみつけよう、学習しようという気持ちが強すぎるのが見受けられます。どこか既にあるものを発見しようという動機で取り組んでも駄目なのです。本当は自分で公式をつくつていかないと駄目なのです。自分で発見しないと通用しません。実際の場面では使えません。

■運命学を習得して目指す境地

昔からある日本の剣道とか柔道、茶道など「道」といわれるものが、どうやって習得されるかというと、「修・反・離」をもって道の修得ができるといわれています。

これはまず教官や先生について道を修めます。つまり始めは真似するということです。「学ぶ」ということは「真似る（まねる）」ということ、それが修めることなのです。

次に、いつまでも修のままの状態ではダメで、「先生ここは違うよ」とか「教官ここは違います。自分はこちら思います」というように、修めたものに対して反対する段階が必要となるのです。すなわち、反という段階で自分流が出てきます。

そして最後に、完璧に師匠の教えから離れます。師匠から教わった普遍的な公式から完璧に離れて

自分流をつくります。自分だけのオリジナルが出来るところまでいかないと、本当の意味で道を修得したとはいえません。運命学の修得も同様です。皆さんに離の段階まで行つてほしいと思います。

そのためフォーチュンソフト社では、今まで正法だけを長くやってきましたが、今回からは奇法をレッスンしています。それは正法と奇法の両方を修得して、フォーチュンソフトの教えに反対して、自分流をつくりあげてほしいと思うからです。

第二章

「恋愛・結婚・不倫」のお悩みへのアドバイス

第一章では、奇法とは何かについて説明しました。万人・全ての人に答えが決まっているものを奇法といいましたが、次に悩み事の相談で多い事例を具体的なテーマを挙げながら説明していきます。

■彼氏彼女、恋愛に関するお悩みへのアドバイス

・『彼氏（または彼女）が私を選んだ理由は？』という相談。特に女性の場合「彼がなぜ、私を選んだのか理由を知りたい？」と相談に来る人がとても多いです。この質問の背後には「あの人は、遊びなの？それとも本気なの？体だけが目的？」という、相談者の「彼の動機を知りたい」という思いが隠れています。

・『彼氏（または彼女）との別れを防ぐにはどうしたらいいのですか？』これも非常に多い相談です。

・『彼氏（または彼女）の本音はどこにあるの？』つき合っている彼や彼女の本音がわからないという質問です。

・『彼氏（または彼女）は今後、私とどうなりたいと思っているのか？』この質問も非常に多いです。

これらの悩みをみてわかるとおり、ポイントは全部「あの人の気持ち」に意識が向いていることです。そして、これらの質問の答えは決まっています。生年月日は関係ありません。「あの人の気持ちを知

りたい」という欲求ですから、ということは相談者はあの人（パートナー）を信じてないのです。「あの人が信じられない」「あの人を私は信じてません」と暗に言っているのです。こういうパートナーが信じられない状態の相談者とは、相手に依存している人なのです。自分の人生や運命を相手に依存しています。

ですから、こういった質問が出てきた時点で答えはわかっているのです。

自分が信頼できない人に自分の人生を依存しようとしているのだから、まず言えるのは、相談者の言う「彼氏（または彼女）は変な相手だ」ということです。ですから、こういう相談を持つてくる人は、必ずと言っていいほど変な相手を選択しているものです。

こういう質問がでてきた時点で「この相談者は変な相手を選択している人だ」と思ってください。そして、あの人の気持ちばかりが気になるということは「私はこう生きたい」という気持ちが無いということを現してもいます。

■魂を無視して生きるとどうなる？

こういう相談をする人達は「もしその彼氏（または彼女）がいなかったら、あなた自身はどう生きたいの？」という問いに対して答えを持っていません。答えられる自分がありません。つまり自分

の魂を考えてない人です。自分の魂に関して無関心なのです。だから不安になるのです。

ですから、この質問の根っこにあるのは、実は不安と恐怖なのです。自分が無いから「自分がこう生きたい」という思いが無いから、心を不安と恐怖が支配するようになってしまったのです。

こういう質問をする人は、変な人を選ぶに決まっています。まともな人は、こういう質問をする異性とは絶対につきあいません。こんなことを言ってくる女性は嫌だからです。心の中は不安と恐怖でいっぱいの人で、それが移るのだから恐ろしいことです。ですから相談者の不安と恐怖を、安心とくつろぎに転換させないといけません。

■「あの人の気持ちを確認したい」という思いを転換させる

では、どうするのか？

こういう相談者の質問には「じゃあ、あなたはどう生きたいの？」と質問して相談を転換させます。「相手の気持ちを知りたい」という相談者の質問に対してまともな答えでも駄目なのです。相談者の土俵にのってしまうことになるからです。相手の土俵にのつくと相談を受けた側も不安と恐怖に感染してしまいます。ですから、この質問にのつてはダメです。「あなたはどう生きたいのですか？」と質問を転換させるのです。結局「自分の魂は自分で責任を持って！」ということが結論になるのです。

■男女の相性をみるときの重要なポイント

男女の相性をみるときに、とても重要になるのが『自立』ということです。「私はこういう人生を歩む」という自立した考えの持ち主であれば、やはり自立した異性を選びます。こういう人達の関係は互いに平等です。依存とか頼ることがありません。サラサラとした人間関係をつくります。いざというときは、彼氏や彼女がいなくても「自分の人生はこうやっていくんだ」というのが決まっているので相手に依存しません。お互い依存しない関係。これが「吉」の関係です。この状態を本当の意味で相性が良い関係といえます。

先程のテーマのような質問をしてくること自体、自立してない証拠です。相手に依存したい欲求の表れです。そんな依存心を持った人は、必ず同じような依存心のある異性に会います。これが凶なのです。はつきりしています。

私が女性をみる場合も、そこしか注目しません。もちろんスタイルがいい。グラマーだ、かわいい、それも大事ですが、本当につきあうかどうかという観点からだと違ってきます。自立がポイントになります。すなわち、相手がいるとかいないとか、つきあうとかつきあわないは関係なく「自分はこういう人生にしたい」というものを、しっかりと持っている人であればつきあっても大丈夫です。

反対に、それをはつきり持ってない女性は怖いのです。ですから、つきあいません。自立している同

士が相性がいい、自立してない同士は相性が悪い。こう決めてください。

ちなみに自立した人と、依存した人とのペアはありません。あつたとしても一方的な奉仕の関係となります。その場合「相手は私をどう思っているの？」こんな悩みは発生しません。

■「私を捨てる人はどんな人？」へのアドバイス

次のテーマです。『私を捨てる人はどんな人？』です。

これも非常に多い相談ですが、これも答えは決まっています。生年月日、命式は関係ありません。相談に来たお客さんには、とにかく「自立」「安心」これを与えないといけません。

まず結論から言いますが、相談への答えは「あなたの長所を認めない人があなたを捨てます」です。長所と短所は同じ歯車なので、長所をひっくり返せば短所になります。この発想はとても大事です。分けない発想で二分思考ではありません。短所⇨長所という発想です。

具体的に四柱推命の通変星を例に説明します。

例えば比肩を持っている人の命式をみるときに「この人のどこが比肩だろう？」とあまり決め付けてみないで下さい。四柱が時・日・月・年とあると、みるところは月柱天干、年柱天干、月支元命で

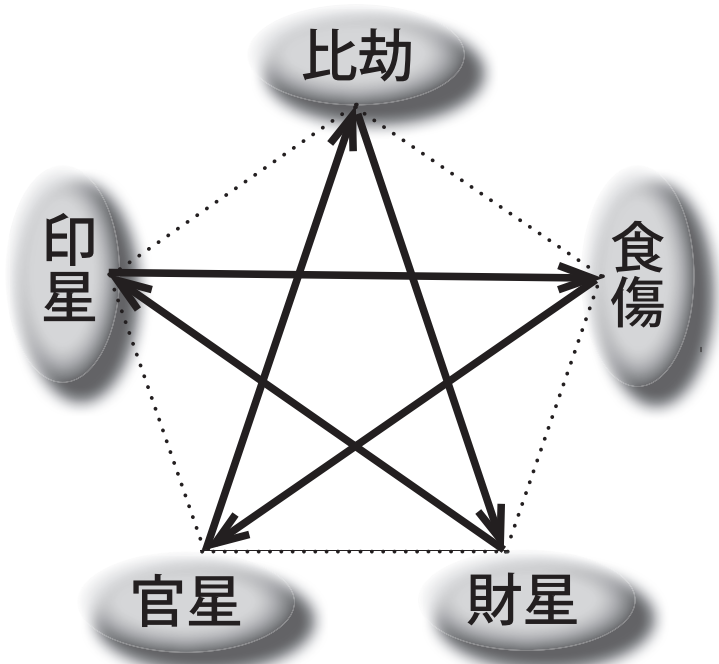
もいいし、時干でもいいです。その人をみて「ああこの人比肩だな」と思ったら、そこを採用すればいいのです。だいたいよくあらわれているのは月か年の通変星ですが、先人観で決め付けて鑑定しないことが大切です。

【相談】「私を捨てるのはどんな人でしょうか？」

比肩「あなたは『独立したい』という思いを持ち、周囲からの干渉を嫌います。独立というのは長所であり、イコール短所なので、短所は『周囲からの干渉を嫌うこと』になります。あなたを捨てる人とは、こういう面を認めない人ですから、あなたの独立性を認めない人、周囲から干渉されることに重きを置く人となります。ですから、比肩のあなたを捨てるのは『あなたは私に従わないパートナーだ』と言ってくる異性です」

劫財「劫財はパワーがあるので、あなたは欲しいものを手に入れます。欲しいものを手に入れるパワーがあります。こういう長所を認めないので、慎重な異性があなたを捨てるでしょう」

食神「食神のあなたは、おおらかです。おおらかで、ゆるゆるのんびりしています。あなたを認め



黒の矢印の実線が「剋」の変通星の関係

ない人があなたを捨てるのだから、おおらかでない几帳面な異性があなたを捨てます」

傷官（しょうかん）、「傷官のあなたは非常にシャープな頭脳を持っています。シャープだから人の欠点をズバリついてきます。それを認めないので、ゆるゆるとしたものを欲しが、る異性はあなたを捨てます」

偏財（へんざい）、「偏財のあなたは社会的です。社交性があることは、いろんな異性と積極的に触れ合いたい気持ちがあります。そういう長所を認めないので、『社会（つきあい）よりもプライベートを優先して』と怒る異性や『残業ばかりし

てないで、友達と飲み会ばかりしてないで家に帰ってきてよ』と言う異性があなたを捨てます」

正財（せいざい）「正財のあなたは協調性があります。真面目で協調性があります。その協調性を認めないのです。『そんなものよりも人生楽しくいきましよう』というタイプの快楽を追求する異性があなたを捨てます」

偏官（へんかん）「偏官のあなたは改革心があります。改革の星ですから大胆です。大胆で周囲を変えていきますから、周囲を刺激します。そのため、いつも緊張しています。それを認めないのですから、異性からやさしくベタベタされたい人、こういう人はあなたを捨てます」

正官（せいかん）「あなたは自分を厳しく自己コントロールします。自分を規制します。そういう自己コントロールを認めないので、自由気ままにいたい異性はあなたを捨てます」

偏印（へんいん）「あなたは面白楽しく、人生に変化を求めて刺激を求めます。単調な生活が大嫌いです。そういう長所を認めないので、あなたは捨てる異性は、安定を欲しがる異性です」

印綬（いんじゆ）「印綬は学問の星です。あなたは物事を深く考えて理想を追います。だから人気が出ます。それを認めないので、あまり物事を深く考えない異性、短慮な異性があなたを捨てます」

こう説明してあげると、お客さんの自立と安心の精神が啓発されます。「なぜ自分が捨てられるのだろう？」という自分の短所を掘り下げる発想ではなく「ああ自分の長所を認めればいいんだ、自分とは縁が無い相手なんだな」と気持ち切り替わります。お客さんに自立と安心を与えることができれば、相談を受けた側の勝ちなのです。

■「不倫にはまったらどうするか？」という相談へのアドバイス

次のテーマです。『不倫にはまったらどうなるか？』

これを解説する前に、先ほどの秋山真之の言葉を紹介していきます。

占いの占法とか原理や理論を学んでいくと、どうしても理論や手法に重きを置きますが、それでは失敗してしまいます。

秋山真之は『腹をくくらない状態での戦略には意味がない』と言っています。これは真之がまだ学生時代に、兄の秋山好古から厳しく言われた教えです。ある時、学生時代の真之が下宿で新聞を読ん

でいると、お兄さんに新聞を取り上げられ「新聞なんか読むな！」と怒られました。「自分はこうやって生きる」という腹も無いのに情報はいらぬというのです。これはとてもいいことです。

「自分はこう生きる」という腹ができてから、はじめて情報や戦略が活用できます。腹ができてないうちは、何を勉強しても、どんな情報を聞いてもダメです。

人生には波がありますが、腹ができてない人は、常に「いいときだけ欲しい」という欲求でいます。ですから「悪いときを避けたい、悪いときは嫌だから避けたい、いいときばかりが欲しい」と発想します。こういうずるい発想の人は絶対に腹ができていません。腹ができている人とは「いいことも悪いことも全部ひっくるめて、溶かして面倒みよう、責任もつていこう」という気持ちがある人です。その状態になって初めて情報や理屈が活きてきます。特に、不倫の問題を考えるとときには、この発想が重要になってきます。

■日本の古事記と不倫と罪

まず「不倫」という言葉自体が道徳・倫理に反するという響きがあり、漢字の並びがよくありません。これは被害者と加害者を分ける言葉です。不倫関係の相談に対する答えも決まっています。が、まず不倫とか、そういうものが罪だという思いを捨てるのが先です。不倫は罪ではありません。

罪という言葉は、キリスト教が捏造した言葉です。「人間は生まれながらに罪人である。だから教会に従え、だから宗教の指導者に従え」と言ったのがキリスト教の組織です。ところがイエス・キリスト自身はそんなことは言ってません。

日本で昔から言われる、やっつてはいけないこととは「殺してはいけません」「盗んではいけません」このぐらいです。日本の古事記をみても男と女の恋の物語は不倫だらけです。日本の神様は不倫しています。古事記を勉強して、日本の神様の話をしてあげて、相談者から「不倫は罪」という感覚

を抜かないといけません。もし罪に対して不安があるならば、もし不安があるうちは不倫をやっつてはいけません。腹ができてないからです。腹ができてないうちはやっつてはいけません。

■不倫してハッピーになる人と不幸になる人の違い

一方で、不倫が罪ではないからといって、実際に不倫を実行すればハッピーになるかというのと、単純にそういうものでもありません。というのも、男が



日本神話には不倫や恋愛の話も多い

成長するときには女が必要で、男は女によって成長します。逆に女は男によって成長するということがあるのですが、ここでいう「成長」とは何かというと「自分の内面に気づくこと」です。これが成長です。

そしていい男いい女の第一条件とは、「自分の内面に気がついていかどうか」なのです。つまり自分は何者か、自分の役目は何かを知っている人が、本当のいい男いい女なのです。こういう人は他人の評価を気にしません。世間体を気にしません。常識を気にしません。道徳を気にしません。自分の内面に従って生きています。だから、こういう人なら不倫をしてもOKなのです。

■自分の内面に気がつくには？

では、どうすれば自分の内面に気がつくのかというと、はつきり言いますと、男と女が情を交わし、傷ついたり傷つけられたりして、ゴタゴタの人間関係の中で闘って、その最中に人によって他人によって自分の内面に気がつくのです。

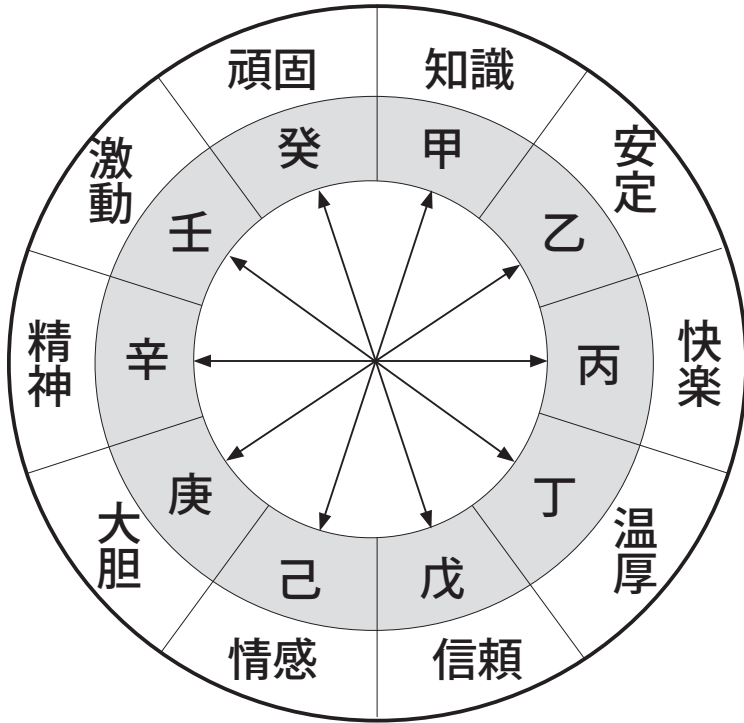
ですから「どうすれば自分の内面に気がつくの？」への答えは、「人に迷惑をかけなさい、人に迷惑をかけられなさい。そういうゴタゴタを経験して初めて自分の内面に気がつくのです。怖れずにやってみなさい」です。

もし、不倫してみたければやってみなさい。それで誰かを傷つけると思うなら傷つけてみなさい。もし自分が傷つけられると思うなら傷つけられてみなさい。やれば必ず自分の内面に気がつきませう。結果、自分の内面に気がついたらハッピーです。自分が何者か分かるのだからハッピーです。何もやらないでグジグジ、グジグジ考えている人は絶対にハッピーではありません。

■悩む人の「考える」とは錯覚にすぎない

ちなみに「考える」とは何かということ、結果の整理です。やる前からグジグジ、グジグジ考えるとというのは、「考える」とはいけません。そういうイジイジしている状態は考えるとはいけません。「考える」とは、やりたいことをやって、その結果を整理することが「考える」です。結果だから、自分の内面に気がつかないと「考える」とはいえません。

「考える考える」とよく相談者はいますが、「そんなに考えているのなら、自分の内面に既に気がつきましたよね？」ということなんです。「自分はこういう天命をもって産まれてきました。十年間これを迷いなくこれをやります。周りがなんと言おうと関係ありません」という自分の内面に気がついたときに、初めて「あなたはよく考えましたね」と言えるのです。自分の使命・内面に気がつかなければ、何も考えてないと同じなのです。



反対にある干が干合の関係となっている

■各十干別「不倫にはまったらどうするか？」へのアドバイス

では、ここでのテーマ『不倫にはまったらどうなるか？』を占いの手法を使って十干別に解説します。

甲・不倫も結婚も全部本気です。遊びとかそういうことにはなりません。全ての男女の恋愛は本気です。しかし自分の役目はいつも考えて知っているのです、そんなにひどい結果にはなりません。

乙・甲と同じく、大体どの男女関係

も本気です。遊びがありません。ただ相手に依存しやすい傾向があります。

丙、丙も遊びでなくいつも本気です。いつも本気ですが、冷めやすい傾向があります。

丁、本気とか遊びとかでなく、もともと愛情が地味です。地味とは、愛情が穏やかで、長く燃えるという感じですよ。

戊、もともと人が大好きです。だから遊びとか本気とかありません。基本もともと人が好きです。

己、もし自分がその人に必要とされていると思ってしまうと、その恋に集中します。「自分がいなければどうするんだ」という発想になりやすいタイプです。もちろん本気です。その動機は「必要とされているから」という奉仕的な発想です。

庚、好きになったら強引に押ししていきます。

辛、もともと男女の情に通じにくいタイプです。知り合いのある社長で、女性と千人寝たことを自慢

する男性がいますが、その人をみていて、だからといって女性のことをよく知っていると思えませんでした。ただ寝ただけ。そういう感じで情が通じにくいのが辛いです。

壬 一時的に夢中になります。本気です。しかしバーっとやって考えて、またパツと変わります。

癸 あっさりしにくいです。「人に気に入られたい」という性格ですから、どうしても遠慮がちなところがありません。遠慮がちというのは、はっきりいってドロドロなりやすいです。

■ 「あの人はいい人ですかどうですか？」という相談へのアドバイス

次のテーマです。『あの人はいい人ですかどうですか？』

これも答えが決まっています。占いは関係ありません。生年月日は関係ありません。いい人かどうかは、自分の内面を知っている人がいい人なのです。これしかありません。

「自分の内面を知っている」「自分はこのために生まれてきました」「自分は生涯かけてこんなことやります」という、しっかりしたものを持っている人はほとんどいません。また、そこまではいいけど、そういう内面を求めて道を求めている人、これもいい人です。

不倫をしても何をしても、仕事で成功しても、仕事で失敗しても、道を求めている人は「なぜそうなったのだろう」と発想します。それを通して自分はどんな役目があるのだろうか、いつも考えています。こういう道を求めている人はいい人です。いろいろあったとしても必ずのぼってきます。そして頂点にたどりつきます。

道を求めている人は必ず、頂点に行き着くと寛大になります。というのも、道を求めている以上やってはいけないこともやってしまうし、いろいろと成功と失敗を経験するからです。

自分自身が成功と失敗を繰り返しているの、他人の失敗に寛大になっていくのです。他人の失敗を許せません。だからいい人です。自分の内面を知りたいと思っている人、道を求めている人を別の見方では「宗教的な人」といいます。

■「いい人」かどうかを判断するポイント

間違えないで欲しいのですが、宗教組織に入っている人が宗教的な人ではありません。

逆です。宗教団体に入っている人で、宗教的な人は実はあまりいません。宗教の組織に依存している人ばかりで、自分の内面が何なのかを知っている人はいません。宗教の「宗」は己の道を示すということです。示された己の道を知らないのは宗教的な人ではありません。

それで道を求めている人は、勉強するにしても学問するにしても動機が違います。自分の名誉のためには勉強しません。「この学問をすると人の役に立ちそうだ」という気持ちがあるから勉強するのです。道を求めている人は他人のために勉強します。新しい技術を修得する場合も、人のために修得します。資格もそうです。弁護士資格をとるのも人のためにとるのです。自分のためではありません。ですから、人を判断するときの「いい人」かどうかを判断する場合、まずその人が道を求めている人かどうかをみるのがポイントです。「自分の内面は何なのか？」を求めている人はOKです。

■「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」という相談へのアドバイス

続いて、定番のタイトルです。

『彼女（または彼氏）の心をつかむにはどうしたらいいんでしょうか？』

これも非常に多い質問です。これも答えは決まっています。答えは決まっていますが、納得しないお客さんが多いです。

実は、このテーマは子供の教育と同じです。心をつかむというのは、子供の心をつかむのと同じです。その答えが決まっています。「あの人を信じてあげる」これだけです。子供を育てた方は、実感としてある

方もいると思いますが、子供との信頼関係はどこまでも子供を信じてあげることが大事です。

例えばテストで0点をとってきた。「それでもあなたを信じるよ」「学校の勉強はできないかもしれないけど、こんないいところがあるんだから大丈夫だよ」と信じてあげるのはです。

あるいは学校でいじめられて帰ってきてても「でも○○ちゃんはこんなにいいところがあるんだからお父さんとお母さんは信じてあげるよ」と周りの誰も信じなくても信じてあげるのはです。

■「片思いの彼女の男関係が許せない」というケース

自分の都合のいい部分だけを信じるではありません。ある時、ある男性から「片思いの彼女がある男と一緒にホテルに行ってしまった。どうしたらいいのでしょうか？」と相談がありました。よくよく話を聞いてみると、相談者の心には「自分が認めることのできない変ちくりんな男とホテルにいった彼女を信じられない」という口には出さない想いがありました。つまり認められないのです。自分が認めていないあんな男とつきあった彼女を認めない、信じない、ということなのです。自分の都合のいい面だけを信じるのではなく、自分にとって都合の悪いこともまとめて信じてあげることが本当の「信じる」ことなのです。

■通変星別「彼女（または彼氏）の心をつかむには？」へのアドバイス

では通変星を使って『彼女・彼氏の心をつかむにはどうしたらいいんでしょうか？』を解説します。

【相談】「彼女（または彼氏）の心をつかむにはどうしたらいいのでしょうか？」

比肩「あの人は一人ぼっちが嫌いです。寂しいのが嫌いです。だから一緒に行動してあげなさい」

劫財「あの人はパワーがあるので、好きなことをやりたいと思っています。だったらあの人の好きなことにつきあってあげなさい」

食神「あの人はのんびり飲んだり食べたりしたいと思っています。それなら、あなたものんびり食べたりしてあげなさい」

傷官「あの人は感性が非常に鋭く、シャープな頭脳を持っています。そのため大体コンプレックスを持っています。コンプレックスを抱えていますから、どんどん誉めてあげなさい」

遍財、「あの人は社交性があります。つまり社会の役に立ちたいと思っています。社会の役に立ちたいと思っっているので『あんなことできるね!』とか言っつて、一緒にやっつてあげればいいのです」

正財、「正財も偏財と同じで、自分の能力を人のために使いたいと思っつています。使いたいのだから『困っつている人がいたら助けてあげれば』と言えればいいのです」

偏官、「あの人は革命・改革の星なので敵がいます。そのためいつも緊張っしています。だから『大丈夫よ、敵がいても勝てるよ』と応援っして緊張をっといてあげればいいです」

正官、「あの人は周りから評価っされたいという思いがあるっので、あなたがまず変わっりになっつて『すごいねえ』と評価っしてあげればいいのです」

偏印、「あの人は楽しいことを求める星ですが、ただ楽しいことを求める動機が、大体が過去においって何か悲しいことを背負っつています。だから悲しみを忘れようっつと楽しいことをやろうっつとします。だから一緒に楽しいことをやっつてあげればいいのです」

印綬「あの人は甘えたい、わがままにいたいという子供です。だから甘えさせてあげればいいのです」

結論は「あの人を信じてあげる」ということですが、その前にまず自分自身が自分を信じられることが必要です。「自分は安心だ、自分は大丈夫だ」という自信がないと、人を信じることはできません。ですから、さっきのテーマのような質問が出てくるのは、その相談者が自分を信じてない証拠です。結局、自分を信じてないのです。

■「略奪愛は罪なのか？」という相談へのアドバイス

次のテーマは、最近非常に多いテーマです。奥さんがいる彼氏、旦那さんがいる彼女との恋仲についてです。「略奪愛は罪なんじゃないか？」まとめればこういう質問が多いです。

まず、こういう言葉（略奪愛）自体が二分思考の罠に引っかかっています。奪う側と奪われる側を分けています。正義か罪かを分ける、被害者と加害者を分ける発想です。もう、この時点でこういう質問をしてきた人は不幸なのです。ハッピーではありません。そういう分ける思考を溶かさないといいません。しかし溶かせとって溶けるものでもありません。ではどうすればいいのでしょうか？

■自分の行動への責任の持ち方で結果が変わる

この質問も、はっきりいって答えは決まっています。

こういう質問をされたら、回答は「奪いたいなら奪いなさい」です。「奪ったらどうなるんですか？」と質問されたときの答えも決まっています。「そういう結果を心配するのならやめなさい」です。

つまり、質問がずるいのです。問題は**自分の行動に責任を持つかどうか**です。自分の行動の**全ての結果に責任を持つなら実行してもいい**のです。吉です。何をやってもいいのです。

ところが「責任持たない」という思いや「責任持ちたくない」という思い、「何かあった場合、結果は自分のせいじゃない他人のせいだ」と考える、こういう発想が凶なのです。

■全てに責任を持つ人は、結果うまくいく

こういう質問をしてくる場合、決意を固めて「やる！」と相談にくる人は「不倫によって自分の家庭が崩壊する。それはそれでしょうがない。好きになったんだから。相手にもばれる。自分の家族にもばれる。ばれてもいい」と腹をくくっています。そういう全てに責任を持つ状態であれば吉です。

意外とそういう腹を決めた人や行動に責任を持った人の結果はうまくいっています。うまくいっているというのは、結果的に誰も傷つかずに済んでいます。不思議です。

ところが、結果に責任を持たない場合、すなわち、ある相談者に好きな彼氏がいて「その彼の奥さんは非常に悪い奥さんで、彼が可愛そう」とか、他人を非難するような言い方や、結果に責任を持ちたくないという発想の人が不倫を実行すると、だいたい結末は凶となっています。

■他人のせいにする人は何をやってもうまくいかない

これは普段の生活をみればわかります。愛の相談事だけでなく、全ての相談事です。うまくいかないことがあった場合、何でも他人のせいにする人がいます。仕事がうまくいかないときに、上司が悪い、部下が悪い、景気が悪い、円高だ。他人のせいにするは全て凶です。こういう人は今回もうまくいきません。

うまくいかないというのは、奪った人の心はどうなるかというと、奪った結果、「本当はもつと幸せになるはずだったけど、幸せになつてない・・・」と不満を言うようになります。奪われた人も「パートナーの裏切りは許せない」と、こんな感じの結末にだいたいなっています。人のせいにはしています。

今回の愛情問題だけでなく、もう生まれてからずっと今日までの生活習慣が、うまくいかないことを他人のせいに行っている人は結果がそうなります。うまくいかないことを自分のせいだと考え、「自分にミスがあるからだ」といつも思っている人は、たとえ奥さんが奪われた場合であっても「ああ私

のパートナーにはあの人が必要なんですわ」という感じになって、奪われた本人にも新しいパートナーができたりするのです。不思議なものです。うまくいくのです。

■占い師が心がけるべきアドバイス

だんだん答えがみえてきましたか？

ですから相談者のほとんどは、うまくいかないことを他人のせいになります。そしてもし、ものごとがうまくいって成功した場合、成功したのは誰のせいかというと、自分の努力でうまくいったということです。そうではなく「うまくいったのは人様のお陰」「自分だけの努力だけでは無理だった」「他人の協力があったからうまくいった」と、こういう発想が普段からできている人は、だいたい何をやってもうまくいきます。たとえ世間から見れば奥さんのいる彼氏を奪った。あるいは旦那のいる奥さんを奪ったとしてもうまくいってしまうのです。

占い師、占いかウンセラー、占い指導員などは、お客さんをこの状態にもっていくことです。「もし、うまくいったとしたら、あなたの努力もあるけれど人様のお陰だよ」と相談者に発想させる癖をつけることです。結果がうまくいかない場合でも、絶対に他人のせいにはしない、「うまくいかないのは全部自分の責任ですよ」「全ての行動に責任もちなさい！」と結論づければ、必ずお客さんの波動が上がります。

第二章

「前世と現世、仕事と結婚」の

お悩みへのアドバイス

■「この恋に飛び込んでもいいですか？」という相談へのアドバイス

次のテーマは『この恋に飛び込んでもいいですか？』です。

とにかく相談者には、どんなケースであったとしても、最終的に自立と安心感を与えなければいけません。それが占い師、占いかウンセラ、占い指導員の目標です。

ですから、この質問への答えも決まっています。生年月日は関係ありません。

結論から言いますと、答えは……。「相手を信じるなら飛び込みなさい。相手を信じられないならやめなさい」です。

この答えの大前提として「相手を信じられる人は、まず自分を信じている」ということがあります。「自分でOKだ」「自分の抱えるリスクはOKだ」「たとえ失敗してもなんとかなる」といった自信があります。自分を信じている人は、相手も信じられますが、逆に「ああ、ああなったらどうしよう、こうなったらどうしよう」と自分を信じられない人は相手も信じられません。

自分を信じられない人へのアドバイスは、嫌でも無理でもいいから「とにかくやってみなさい」しかなかったり。結果はどうでもいいのです。結果がどうあれ、いろいろなことを通して、自分の内面の発見につながるのです。今の時代は、自分一人で座禅組んだり滝に打たれたり、山にこもって修行しながら自分の内側を発見する時代ではありません。他人との人間関係によって、初めて自分の内側

が発見できる時代なのです。だから、どんどんやりなさいということです。自分の内側の発見のために、その恋を経験することが必要なのです。

■通変星別「この恋に飛び込んでもいいですか？」へのアドバイス

男女の相性を見るときは、正法では「通変星が比肩だったらこうで、劫財だったらこう」という話しをしますが、実際の相性というのは決め付けではありません。正法では、自分と相手の日干同士に通変星を出して鑑定しますが、このパターンに縛られることは全くありません。

日干と月支元命をみてもいいのです。月支元命と月支元命をみてもいいのです。月柱天干と月柱天干をみてもいいのです。年柱天干と年柱天干をみてもいいのです。何十パターンもあるので、自由にその場でつくって下さい。

では『この恋に飛び込んでもいいですか？』を通変星で説明します。

【相談】「私は今の恋愛にドンドンハマってもいいのでしょうか？」

比肩、「あなたに、いきいきとした生命力が湧いてきます」

劫財 「あなたは、とにかく恋に集中、熱中しないといけません」

食神 「あなたは、ゆったりまったりとした恋の交わりを味わってみなさい」

傷官 「あなたは理屈っぽい人があります。相手を傷つけたり、相手から傷つけられたりしますが、傷つけあいながら愛し合ってみなさい」

偏官 「あなたは革命、改革の星ですから、この恋によって自分の人生の課題が発見できるから経験してみなさい」

正官 「あなたはとにかく助けてあげなさい」

偏印 「その恋によって、あなたの精神世界が広がるので経験してみなさい」

印綏 「あなたはお母さんの星ですから、甘えさせてあげなさい」

このように説明すればお客さんに安心感を与えることができます。

■「恋によって何を学ぶのか？」へのアドバイス

では、ちよつとタイトル変えてみます。次は『恋によって何を学ぶのか？』です。

お客さんは「恋がうまくいきますか？うまくいかないですか？」とよく聞いてきますが、あんまりこれに正面から答えないで「あなたはその恋によって何を学ぶ必要があるのでしょうか？」とお客さんの頭を切り替えて下さい。相談者の四柱推命の通変星を出して、その恋によって学ぶべきものを言うてあげればいいのです。

そして、命式のどこを観るかですが、まず相談者を十分くらい観察していけば、だいたいの性質がわかります。月支元命が作用している人、月柱天干が作用している人、年柱天干が作用している人、時柱天干が作用している人、だいたい話を聞いているとわかります。その部分を言つてあげればいいのです。

それでは『恋によって何を学ぶのか？』を変通星を使って説明してみます。

【相談】「私はこの恋で何を学ぶのでしょうか？」

比肩「あなたはその恋によつて自立することを学ぶのです」

劫財「あなたは自己主張が強すぎて、必ず恋人とけんかになります。意見の違いは生まれ育った環境、家庭環境に大きな原因があります。これが意見の違いになることが多いです。あなたとパートナーの生まれ育った環境が違つと、当然意見や発想が違つてくることを学ぶために、この恋が必要です」

食神「あなたは友好関係が恋によつて広まることを学びます」

傷官「あなたは感性が鋭くシャープです。正直にものを言うことが、どれだけ相手を傷つけるのかを学びなさい」

偏官「あなたは愛したい気持ちと憎らしい気持ちは、実は同じエネルギーなのだ学びます。『好きだ好きだ好きだ』という思いは、ひっくり返るとあつという間に『嫌い嫌い嫌い』になることを体感するのです」

正官「あなたは、たとえその恋で『失敗した、変な人を好きになってしまった』と思っても、どんな人からも学ぶことがあることを学びます」

偏印「あなたは、この恋によって、より深い精神世界のことを学びます。気がつきません」

印綏「あなたは相手に甘えたい依存したいという、自分自身の依存心に気がつきます」

このように解説しながら、相談者に自立と安心感を与えることがポイントです。これが結論です。

■通変星別の「二分思考」から発生する悩み

次に、具体的に「二分思考」の罫にはまると、どんな悩みが発生するか事例をあげて説明していきます。

二分思考とは「良い」と「悪い」とを分ける発想です。例えば「結婚生活と仕事を分ける」発想をすると、「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなるのか？」という思いになり、さらに「結

婚が優先か？仕事が優先か？」こんな悩みが発生します。

実際は、この悩み自体が間違っているのです。本当は、こういう悩みは存在しないのです。結婚と仕事を敵対関係に置く発想のままでは、必ず運が下がります。波動が下がります。うまくいきません。それが、具体的にどううまくいかないかは通変星で表現します。

■「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなる？」への通変別アドバイス

比肩・肩を並べることです。人間関係のことです。人間関係がうまくいかないです。二分思考だから、職場でもうまくいかないし、家庭でも人間関係がうまくいきません。

劫財・熱中し過ぎる面があります。職場でも周りの意見を無視して反発される。家庭でも何かに熱中して「私の言うことかかないのね」と反発される。どちらからも反発される。二分思考の脳みそになっている間はこうなります。

食神・自分が目立つという意味があります。仕事をやったら自分が目立ちたいだけです。家庭生活でも同じように「自分の意見ばかり言って私のいうこときいてくれないのね」となります。

傷官 非常に鋭い感性を持っているので、他人を批判します。職場では上司、部下、同僚を非難し、家庭では配偶者を非難します、あるいは子供を「勉強ができない」とか非難します。

偏財 「全て任せて」という意味合いです。二分思考になると、全部自分でやってしまい部下を信用しない人になります。家庭でも「大きな買い物でも一人で勝手に決めてしまう」などと反発されます。

正財 何でもコツコツ我慢してやりますが、仕事では本当のことが言えません。仕事の悩み、失敗を上司に相談できなくなります。家庭でも配偶者に言いたくないことを隠すといった感じになります。

偏官 新しいものに変えるという意味があり、今までのやり方に飽きてしまいます。だから会社では今までの会社の伝統とか、先輩のやり方に飽きて、非難して勝手に変えようとする奴と思われる。家庭では、安定した家庭の生活に飽きてしまうようになります。

正官 人に従うという意味があり、会社では嫌な上司に無理に従っている。納得してないまま仕事をやってしまいます。家庭においても嫌な配偶者に、無理に従っている、となります。

偏印・もともとアイデアが豊富にありますが不安定です。職場ではアイデアばかり沢山出しますが、それがちつとも実現しません。不安定にもなります。家庭でも「きちんと給料を毎月入れてよ」とこんな感じになります。

印綬・学問とか好奇心という意味合いですが「思いつきで仕事やってるんじゃないの？」という感じになります。家庭においても「将来の計画が無い」などと言われてしまいます。

このように結婚と仕事を分けて考えてしまうと、通変星の悪い面が仕事にも結婚生活にも出ると理解して下さい。実際のところ、仕事のできる人は家庭もしっかりしているものです。仕事ができて、家庭がダメという人を見たことはありません。

何故かというと、家庭の面白さ（特に子供から受ける刺激）と、仕事から受ける面白さや刺激とはどっちが強いのか、どっちがより面白いかといえば、明らかに家庭だからです。

子供は毎日変化します。毎日進化します。毎日問題を起こしますから、その対応を考えていると非常に面白くて刺激的なのです。仕事は組織の中での役割に限られますので、面白さはそれほど強くはありません。

こう考えてみると、家庭をしつかりできない人は仕事はできません。なぜなら家庭のほうが面白い刺激のだからです。それを発見できないのに、仕事の面白さや刺激がわかるはずありません。

もう少し言えば、仕事の管理ということがあります。部下とかスケジュールの管理はどこからくるのかというと、実は自分の管理の延長なのです。自分の生活の管理、自分の感情の管理、自分の人生設計の管理のノウハウが、そのまま家庭の管理になります。その延長が仕事の管理、仕事のチーム全体の管理となっていくのです。ですから、仕事ができて家庭が駄目だというのはありえません。

全て一緒です。つながっています。だから「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなりますか？」という質問自体がダメなのです。すでにもう失敗しています。仕事も結婚も両方うまくいくか、仕事も結婚も両方ダメかのどちらかなのです。ですから実際の相談を受ける場合、「どっちともうまくいきますよ」と言っておあげましょう。両方うまくできると思わせることです。そうしないとお客様の運が下がります。

■「結婚生活を犠牲にして仕事を優先させるとどうなる？」への中心星別アドバイス

次に同じ相談を、ホロスコープの中心星（支配星）を使って解説します。アスペクトの一番多い星を中心星、支配星といいます。

占星術（ホロスコープ）の惑星の一般的な象意

	記号	キーワード
太陽 Sun		太陽はその人の性格に影響を与える割合が大きい 性格、仕事、人間関係、夫、父親、靈魂
月 Moon		太陽に次いで、その人の性格に影響を与える割合が大きい 感情、感性、狭い視野、家庭、妻、母親
水星 Mercury		知的傾向を示す。関心ごと、表現方法がわかる。 知性の傾向、情報、話すこと、書くこと、学習、記憶、旅行、流動性 記号：ヘルメスの杖を図案化、二匹の蛇の絡んだ杖
金星 Venus		愛情傾向を示す。恋愛、結婚、夫婦問題 愛情傾向、肉体の情、人気、芸術、ファッション、怠惰 記号：女性を象徴する手鏡を図案化
火星 Mars		行動傾向を示す。 行動傾向、実行、積極性、勇気、衝動的、スポーツ、格闘技 記号：盾と槍を図案化されたもの
木星 Jupiter		幸運を示す。 幸運、発展、社会、指導者、神、宗教 記号：神の稲妻を図案化
土星 Saturn		忍耐、制限、不調を示す。 困難、利己心、不機嫌、打算、制御、病気、年配の人物 記号：アラビア数字の「5」を図案化、「5」に鎌が付与されている
天王星 Uranus		変化、覚醒と改革 変化、改革、独立、発明、独創性、上司に逆らう 記号：発見者「ハーシェル」のHの図案化
海王星 Neptune		やさしさ、思いやり、神秘的幻想無償の愛、やさしさ、同情心、直観、夢、理想、優柔不断、ルーズ 記号：三叉の鉾の図案化
冥王星 Pluto		PとLの組み合わせ記号 劇的な変化、破壊と創造 究極の目的と魂、劇的な変化、洞察力、物事の始めと終わり、死と再生

太陽 結婚生活にも仕事生活にもエネルギーを注ぎます。注ぐ能力があります。

月 仕事・結婚どちらも情中心。情関係です。結婚生活でも情関係、仕事でも人との情関係がよいはずです。

水星 どちらも計画的で手順がいいです。仕事も結婚も中立的です。片一方が手順よくて片一方が手順悪いことはありません。

火星 闘争心ですから、仕事では戦いでやりますから、競合他社と戦って実績を出せます。勝てます。そして家庭では戦いではなくて、これは性欲ととります。性欲が満足できるきちんとした家庭生活です。

木星 信頼とか信用です。会社では信頼・信用があり重宝されます。家庭でも配偶者や子供から信頼されます。

土星 困難とか苦勞の意味合いです。仕事・結婚どちらも楽ではありませんが、苦勞を楽しみに転換

できるはず。人間が、楽しいと思う瞬間というのは「ちよつと自分自身が成長したな」と感じる瞬間です。家庭でも配偶者や子供を通して人間的に成長します。仕事でも苦勞を通して成長します。

天王星・ひっくり返すという星です。仕事で上司の意見に反発して、「今までのやり方をまるつきり変えたりして反発されますが、新しいことをやります。家庭においてもちよつと普通の家庭ではないことをやります。仕事でも結婚でも新しい何かをやります。

海王星・夢みる星です。仕事は大きな夢を抱いてやります。家庭でもロマンチックで楽しい家庭を築きます。

冥王星・強引です。仕事では、あなたしかできないことがあります。そういう仕事をまかせられたら多少強引にやってもOKです。家庭ではやはり、あなたしかできない強さが求められることがあります。そのときにはあなたの能力が生きます。

相談を受ける側は、決して「結婚生活と仕事、どちらがその人には向いているか？」と発想しないことです。両方いいか、両方とも悪いかのどちらか一方です。ですから家庭も仕事も両方よくしてあ



秋山真之は型の危険性を警鐘した

げることです。結論は「仕事と結婚どちらもよくしてあげる」と確信して、占いを上手に使うてアドバイスして下さい。

■型やパターンの持つ危険性

運命学や占いで、ある型とかパターンについて説明すると、それがまるで真理のように、型に固執する場合が多くみられます。このことの問題について、また日清・日露戦争を例に「型」

について説明します。

戦争の「型」が生まれたのは、日清・日露戦争のときです。型の無かった時代に秋山真之が型を発明しました。当時は軍艦の保有数、兵の数などの物量で日本は圧倒的にロシアに負けていました。「弱者の日本が強者のロシアにどうすれば勝つのか？」というところから型や戦略を発明しました。

日露戦争の日本海々戦では秋山真之率いる海軍が、ロシアの戦艦を全部沈めてしまいました。大勝利しました。このときに一つの型が産まれて大勝利したのはいいのですが、これ以降、日本軍全体が、

型に固執するようになってしまいました。

そのため軍人はどういう人が出世するかといえば、型を多く暗記した人間が出世するようになりました。いわゆる秀才です。こういう人が軍隊で出世していききました。

なんとなく今の日本の官僚制度に似ています。東京大学の法学部に入って国家試験の上級に通って官僚になるという、このパターンの最初の事例です。型を多く暗記した者が参謀官になるのが、習慣化しました。

■「型に固執すると滅びる」とは？

これを心配したのが秋山真之本人でした。真之は『型に生まれ、型に固執するとやがて型とともに滅びる』と言って死にました。そして日本は型によって滅びるだろうとも予言しました。アメリカ相手と戦争するかもしれないともいいました。なぜかというところ「型に固執して戦争をやれば勝てるんだ」と傲慢になっているのがわかったからです。

「日本は神の国だから負けないという」信仰みたいなものが産まれていたので、それを真之は心配したのです。日露戦争に勝ったのは、弱者の日本が強者のロシアにビクビクしながらも必死になって、勝つ戦いではなく、負けなければいい戦いだと発想したうえで、必死に考えて型を生み出して勝った

戦争でした。

ところがいつの間にか傲慢になってしまった日本は「型を修得しているので勝てる」と傲慢になってしまい、そのままアメリカ相手にも勝てるとおかしな発想になってしまいました。

■庶民の恐怖心を煽るメディア

当時この考えをミスリードしたのが新聞です。当時のメディアです。当時の新聞は「日本は無敵」と書いていました。国民もそれを信じた。メディアはいつの世もそうですが、良心を刺激しません。ただ恐怖を煽るだけです。

新聞はただ煽るだけ、テレビも煽るだけ。戦争を煽っています。戦争を煽ったから太平洋戦争になりました。日本人は有頂天になりやすいです。実は有頂天になりやすいということは、超悲観的にもなりやすいのです。

このことは現在も同じです。「少子高齢化で将来がない」「円高でトヨタが赤字」「消えた年金はもらえない」メディアは悪い情報ばかりを流します。心配や恐怖を煽っているのです。日本人全体が洗脳されています。日本人はこういう特性を持っていることをよく理解して下さい。今のままならば、仮にこれから十年後バブルが来て景気よくなっても日本はまた失敗します。また海外から足をすくわれ

ます。

■「前世でどういうことをしていたのか？」という疑問へ変通星でのアドバイス

『型が生まれ、型に固執し、型とともに滅びる』を最初に解説して、その上でこれから前世の話しをします。

次は『前世であなたはどのようなことをしていたのか？』というテーマです。

この答えも決まっています。とにかく前世とか言うと、過去の出来事なので、変えられない宿命と思われがちで、不安と恐怖を抱く人も多いです。しかしどんな場合でも、お客さんには不安と恐怖を与えない回答をしなければいけません。安心と希望を与えなければいけません。もし不安と恐怖を与えてしまうと、相手は本当にその通りになっってしまうからです。

テクニク的には、前世を見る場合、四柱推命の年柱の天干の通変星をみると大体当たります。ただこれも一つの型なので、このとおりにやらなければいけないものでもありません。皆さんが独自に発明してもかまいません。

通変星は価値観をあらわすので「あなたが前世にどんな価値観で人生を歩んできたか」が答えとなります。

【相談】「私はどんな前世だったのでしょうか？」

比肩、前世のあなたは独立と競争に明け暮れた人生ですね、だから現世はちよつと意地っ張りです。独立競争は当たり前にできます。もし相談者が「自分には独立・競争が出来ない」と思っているなら「前世で散々やってきたことだからできますよ」と答えればいいです。

劫財、とにかく無茶苦茶、熱中した人生でした。ちよつと欠点が出ると、やりすぎの一面がありました。もし相談者が「熱中できることがあります」と言えば、「前世でさんざん何かに熱中してきた人だから、そういう何かに出会えば簡単に熱中できますよ」と答えればいいです。

食神、自由と平和を愛します。欠点が出るとちよつとダラダラしてしまうところがありました。「そんなに自由と平和を求めて生きてませんよ」と言われたら、「前世では間違ひなく自由と平和を求めて生きてきたから、このぐらひはやれば当たり前になりますよ」と言えばいいです。前世でやってきたことは努力しなくてもできると言ってお下さい。

傷官、これは才能です。才能をとにかく周りにアピールした人生です。そういう感じですから、他人

に批判的で心に傷を負わせることがあります。相談者が「そんなに才能ありませんよ」と言ったら「前世では間違いない才能があったんですから、得意な分野があるはずですよ」と答えればいいです。

偏財・冒険です。とにかく何でもやってみないと気が済まない人生でした。反面、欠点があると危なっかしい一面を持つ人でした。

正財・誠実で周りから信頼された人生でした。信用ある人物でした。ちよつと欠点が出ると、誠実すぎて慎重になり過ぎるところがありました。

偏官・周囲を巻き込んで改革し、正義の人生でした。まわりをどんどん引き込んでやっていきますが、ちよつと好き嫌いが激しい人生でした。

正官・自制心です。ちよつと欠点として出てしまうとリスクを取らないことでした。

私の場合も正官が年柱にあるので、いわゆる大企業のサラリーマンでも当たり前前にできると思っています。しかし実際は大企業のサラリーマンを二回、三回と転職しましたので、現実にはできていません。

それは大企業の管理職にふさわしい人物が上司がいなかったからです。

■四柱推命の方程式を超える発想の仕方

いい上司がないといいサラリーマンはできません。いい課長いい部長がいて、はじめていいサラリーマンとしてやっていきます。しかし私が勤めた会社にはいい課長、いい部長がいませんでした。「だからサラリーマンができなかった」と思えばいいのです。何も方程式の発想で「正官があるから大企業のサラリーマン勤まります。しかし勤まりませんでした。じゃあこれは間違ってるんですか？」こういう発想ではダメです。本当は勤まるけど、サラリーマンはいい上司がないと不幸だから、やめたんだと思えばいいのです。

偏印・好奇心旺盛な人生でした。欠点は夢をみすぎるところでした。

印綬・学問・研究の人生でした。欠点をは誰かに依存した人生でした。

前世を通変星で説明するならこのぐらいが適当です。

■「前世でどういうことをしていたのか？」という疑問へ十干でのアドバイス

続いて年柱天干の十干を使って解説しますが、結論は相手に不安と恐怖を与えなければいいのです。そして「どんな人でも年柱天干のことぐらいは当たり前前にできる」と思つて結構です。

甲・曲がつたことが嫌いな人生でした。

乙・自分が好きな人をサポートした人生でした。

丙・夢中になつて何かを求めた人生でした。

丁・人に優しくした人生でした。

戊・忍耐強く生きた人生でした。

己・周囲の人と沸きあい楽しく過ごしてきた人生でした。

庚、自分の信念を貫いた人生でした。

辛、試行錯誤を繰り返して、完璧を求めた人生でした。

壬、激しい時代の変わり目で、常に先々を読んで生きてきた人生でした。

癸、何でも器用に過ごした生でした。

古典的には日柱天干が「我」といってますが、それにこだわる必要はありません。古典のそれしかないと思つては駄目です。

■「前世でどういうことをしていたのか?」という疑問へ十二運星でのアドバイス

続いて十二運星を使って解説していきます。

とにかく長所と短所を分けて考える発想はよくありません。長所の裏返しは短所ですが、長所も短

所もまとめて溶かす発想がないとカウンセリングは難しいのです。これは重要な発想です。

長所と短所を分けて考える二分思考は、この二つを敵対関係に置いてしまう発想です。これでは相談に来た人の波動が下がってしまいます。敵対関係の発想だと波動が下がってしまうのです。

古典的な四柱推命や紫微斗数推命も皆そうですが、鑑定した結果、五行の強弱を出します。そして喜ぶ神と忌む神を出します。喜ぶ神だと長所が出て、忌む神だと短所が出るといいます。そのため必死になって、○（マル）×（バツ）や吉凶を出します。しかし、実際は○だから長所しか出ないとか、×だから短所しか出ないかといえは、絶対にそんなことはありません。長所も短所も両方出るのが人間です。こういう従来の正法では、実際のカウンセリングには全く使えません。

それでは、以上の内容を踏まえた上で、十二運星を例に敵対関係にある長所短所を溶かしていきま
す。脳の発想の訓練です。

胎、独自のやり方です。独自の方法でやるので、周りのやりかたは全ておかしいと思います。そのため短所として不満が多くなります。

養、じっくりとやります。では短所はじっくりとやるので時代の変化になかなかついていきません。

長生（ちやうせい）― おだてるとやる。どこまでもやる。短所はだまされやすいところですよ。

沐浴（もくよく）― 機を見るに敏、新しもの好きです。だから短所は飽きっぽい。

冠帯（かんたい）― ええかつこしいです。だからスマートにやります。かつこつけてやります。だから短所は面子にこだわることです。

建禄（けんろく）― 文字通り筆を立てるといふことです。完璧に無駄なく計算してやるといふことになります。だから短所は厳格すぎることにあります。

帝旺（ていおう）― 「はいご飯、はいお茶、はい風呂」といふのが帝旺ですから、のんびりとやります。短所は、一旦勢いがついたら軌道修正ができないこと、あるいは数字に弱いこと。

衰（すい）― 過去の経験をみてしっかり、落ち着いてやります。だから短所は感情表現が乏しいことです。

病（びょう）― いつも心配してます。だから非常に目敏い（めざとい）です。目の前の変化に目敏いです。短所

はいつも心配しているところです。

死・秩序を重んじます。ルールを重んじます。だから短所は流れに乗れないところです。新しい流れに乗れません。

墓・コツコツやります。コツコツとやるのはいいのですが、短所として古い習慣にこだわりやすく、いつまでも古いやり方でやるとなります。

絶・糸に色を塗ることですから、変化する、毎日のように変化する、夢想的な意味合いです。だから短所としては、安定しないところです。

以上の内容を、そのまま暗記するのではなく、あくまでも自分の脳で長所と短所を敵対関係に置かず、溶かして理解することです。溶かしてイメージ的に理解する訓練です。そうでなければ、実際にお客さんをカウンセリングして、プラスの波動にして帰ってもらうことができません。

■「あなたの悩み自体が間違っている」とは？

次のテーマです。質問が（＝悩み）が間違っている例について説明します。よくある悩みで「どうしても結婚できませんか？」という相談がありますが、ほとんどの場合、こういう質問自体が間違っています。

実際は、結・婚・し・た・く・ない・か・ら・結・婚・し・て・な・い・だ・け・で・す。本気で結婚したい人はほとんどいません。

例えばフォーチュンソフトでは国際結婚の斡旋もしています。中高年の男性にフィリピンの女性を紹介しています。そこで百人以上の面接をやってきましたが、実際にお見合いまで行こうという人は百人中何人いるでしょうか？・・・だいたい百人いたら十人くらいです。

本気で結婚したいなら、交通費を含めてお見合い費用が約十五万です。百人来るうち実際にお見合いに行くのが十人、その中で実際、結婚までいく人が何人いると思いますか？だいたい二人くらいです。

後の人はダラダラお付き合いはしますが、結婚までいきません。なぜ結婚しないのか聞いてみると、ほとんどの場合「親が反対する」「親戚が反対する」「世間体が悪い」「外国人と結婚するわけにはいかない」と言います。結婚しない理由を他人のせいにするのです。「どうすれば結婚できますか？」と来ますが、本当に結婚したい人は実はわざわざかなのです。

■フォーチュンソフト社に結婚相談に来た女性の本音

女性の場合も、今まで結構相談がありました。が、そういう場合、まず当社では「任せて下さい。当社が無料で探してみましよう」と提案します。フォーチュンソフト社のHPは一日に約二百から三百人のアクセスがあるので、月に一人は見ています。そのHPのトップに「花婿さん募集」と出してあげます。毎月一人の人がみえます。三カ月で三万人です。三万人みれば「あなたと結婚したい」という人がでてきますから、そうしたらお見合いしましよう、と毎回提案しています。女性にそのように提案しますが、すると何人が「ではやってください」と言うと思いますか？

実は0人です。コスト0円なのに、こちらで写真とって、プロフィールを書いて無料でやってあげましようと言うのに「やめて下さい、とんでもないです」と言うのです。どうしてかと聞くと「恥ずかしいから」と言います。すなわち結婚したくないのです。

本当に結婚したいなら腹をくくってるでしょ？「結婚したい！」という腹ができてないのです。腹ができてないのに「ただなんとなく、世間体が悪いから」とか、つまらない理由で質問にくるのです。ですから占い師、占いかウンセラー、相談者はこういう相談に対して、まともに答えては駄目なのです。ほとんどの場合、質問がウソです。悩みがウソです。ウソを見抜くには「やってあげましよう。HPにのせてあげましよう。そうしたら三ヶ月以内にお見合い相手が現れますから、任せて下さい」

と試しに言って下さい。ほとんどの場合、「やめてくれ」といいます。こんな質問にまともに乗ってはいけません。

■「どうしたら結婚できるか？」という相談へのアドバイス

以上の内容は奇法ですが、正法を使ってまともな答えるとどうなるかを解説します。この場合、通変星は月支元命を見るほうがいいです。もしくは月柱天干でもいいですが、月支元命のほうがいいでしょう。

【相談】「どうしたら結婚できますか？」

比肩 「あなたは協調性がありませんから、そこを改めると結婚できます。」

劫財 「あなたは浪費癖があるので、しっかりお金を貯めれば結婚できます」

食神 「あなたはちょっとだらしないので、几帳面な生活をしたら結婚できます」

傷官、「あなたは人を批判するので人の悪口を言わないようにすれば結婚できます」

偏財、「あなたは社交性がありすぎて、いろんな異性と付き合いすぎるので、一人だけの異性にしたら結婚できます」

正財、「あなたは少し窮屈な生活をしていますから、もう少し異性に対してオープンに気楽にお付き合いする気持ちになれば結婚できます」

偏官、「あなたは、非常に緊張感を相手に与えるので、リラックスして、落ち込んでいる人に優しく声をかけてあげれば結婚できます」

正官、「あなたは、もともと相手につくす星ですから、あなたの身の回りにあなたが尽くしている人がもっていますよね」

偏印、「あなたは、いろんなことをやりたい快樂主義ですから、ちょっと生活を安定させるようにす

れば結婚できます」

印綬 「あなたは、学問好きで理想を追い求めるのはいいですが、あまり理想を追い求め過ぎないで、現実をみつめれば結婚できます」

これが正法でのアドバイスですが、これを使つても相手の土俵に乗るだけで相手の本当の問題点はわかりません。最初に説明したように、相談とは「問題点がわからない」ことなのです。結婚できないことが問題点ではありません。「本当は独身でいたい」という思いが隠れているのです。ですから、なぜ相談者は独身でいたいと思うのか、根っこの部分を発見しなければ、その相談は解決はしません。

